

# 協働事業評価シート

部課名	文化スポーツ部 文化芸術振興課
記入団体名	蔵と現代美術展実行委員会

平成30年度
--------

予算事業名	協働の推進
-------	-------

新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>
---

協働事業名称	プレ・蔵と現代美術展2018	
協働事業の概要	川越市内に点在する蔵空間を利用して、現代美術の展示発表を行った。歴史ある川越の蔵づくりと今を生きる現代美術が融合することで、現代美術に親しむ機会を創出するとともに蔵の街川越の発展にも寄与。今回は来年度開催の本展「第6回蔵と現代美術展2019」に向けたプレ展であり、本展の事業の周知と参加者の拡大を目指して開催。 日時 平成30年11月17日(土)～11月25日(日) 場所 旧川越市街地(8カ所)	
協働事業の決算額	200,000 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成30年11月17日～平成30年11月25日	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	①補助・助成 ②共催 ③協働委託 ④後援 ⑤情報交換・情報提供 ⑥実行委員会・協議会 ⑦事業協力 ⑧企画・計画立案への参画	①

## 【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた(5点) ・よくできた(4点) ・できた(3点)  
・あまりできなかった(2点) ・全くできなかった(1点)

No.	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中前	3	5	4
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中前	4	5	4.5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	4	5	4.5
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	4	4	4
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	4	4	4
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	5	4	4.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	4	4.5

合計点数	30 点
------	------



札の辻交差点での  
展示の様子

**【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】**

**【行政】**

歴史ある川越の蔵造り空間と現代美術の融合は、蔵空間が現代まで数多く継承されている本市だからこそ出来る事業であり、現代美術の普及や蔵空間の掘り起こし、観光客誘致など複数の側面から大変意義深い事業である。会場は全部で8カ所あり、仲町観光案内所など市外からの観光客が多く来る場所での展示では、観光客は意図せずに現代美術作品を鑑賞することが出来、大変喜ばれていた。また、屋外展示もあり、街中に突如現れる大型の展示作品は非常に印象的で、通りかかる人達も多く足を止めていた。そして、J:COMチャンネル「長々と散歩」の舞台に選ばれるなどその注目度の高さが伺え、来年度開催の本展に向けて大きな布石となったと考える。

**【市民活動団体等】**

蔵と現代美術展はプレ展と本展を交互に行っており、プレ展は本展と比較して予算と期間が半分以下で開催している。

プレ展はプレということもあり、若年層の取り込みや他いろいろな試みが行える。故に、今回も来年本展のシュミレーションや多くの可能性を試すことが出来た。

協働事業は主にプレ展の開催時の時にお世話になっている。理由は予算規模が本展を行うには協働事業の補助金では賅えず、また、県の助成や国との助成と協働事業は同時に申請出来ないことがその理由である。

しかし、協働事業は小回りが利き、手続きも近くでし易いので、プレ展に向いている。しかし、今回で3回目の申請の終了となってしまった。今後とも蔵と現代美術展実行委員会としては市からの応援を望むので、何か良い手立てがないものかと考える。

**【川越市協働事業審査委員会における評価】**

		総合評価
A	2名	B
B	7名	
C	1名	
D	0名	

**【事業に関するコメント】**

「蔵」という伝統的建造物と「現代美術」の融合は、川越独自の文化芸術であり、観光以外の文化的側面に目を向けさせる希少性のある事業であると思います。また、観光スポットだけではない川越を知るきっかけになるのではないのでしょうか。

今回展示を行った蔵や街中の古民家など、とても興味深い場所で展示を行っている一方で、展示場所が見つけにくいという課題があると思われます。来年の本展に向けて、改善を進めていただくとともに、今回協働した行政や市内で行われているイベントと連携しながら大々的に事業の周知を進めていただきたいと思います。

# 協働事業評価シート

部課名	文化スポーツ部 文化芸術振興課	平成30年度
記入団体名	小江戸川越市民音楽祭実行委員会	

予算事業名	協働の推進	新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>
-------	-------	--

協働事業名称	小江戸川越市民音楽祭	
協働事業の概要	「小江戸川越市民音楽祭」の開催 開催日 2018年12月8日 13:00会場 13:30開演 17:00終演 開催場所 ウェスタ川越 大ホール 出演団体 埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園、川越市立山田小学校、川越市立山田中学校、日本フィルハーモニー交響楽団、川越市立中央小学校、東邦音楽大学、尚美学園大学、パイオニア吹奏楽団、パイオニア交響楽団（9団体・223名） 来場者数 約700名	
協働事業の決算額	200,000 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成30年6月1日～平成30年12月8日	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	① ④

## 【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）  
 ・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	5	5
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	5	5	5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	4	5	4.5

合計点数	34.5 点
------	--------



音楽祭の様子

## 【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

### 【行政】

本事業については、川越市内企業と学校を中心に、多様な団体が参加し音楽祭を開催、誰でも入場無料で鑑賞することができる事業であり、これらは演奏を体験できる場や聴く喜びを体験できる場の提供につながり、川越市の音楽文化の振興に大きく寄与できたものと考えております。

また、音を振動に変えて身体で音楽を楽しむ装置「ボディソニック」や音楽機器メーカーが開発する高音質スピーカーシステム「TAD」等、団体の得意分野を活かした新技術の体験については、団体との協働事業ならではの成果だったと思います。

来場者数が約700名と思ったよりも伸びなかったことが、唯一残念な結果でしたが、本事業における団体の活動に関しては、自主性・自立性が強く、また、日頃からの音楽祭の開催における経験値も高く、円滑に事業が実施できたと感じます。

本事業を一時的なものとしせず、継続・発展していくことにより、さらなる川越市の音楽文化の振興が期待できますので、引き続き本事業について協働させていただければ幸いです。

### 【市民活動団体等】

音楽祭は約700名のお客様をお迎えし、9団体（奏者総数223名）の演奏を実行委員会ボランティアスタッフ72名で支えるという、まさに手作りによるイベントで「川越市における音楽文化の振興を推進」することが出来ました。

これも、準備段階から暖かく指導いただいた文化芸術振興課の方々のおかげです。大変ありがとうございました。

## 【川越市協働事業審査委員会における評価】

			総合評価
A	7名	当該協働事業を実施したことで、地域課題の解決につながるなど、適切な協働事業として評価できるものであった。	A
B	2名	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	1名	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D	0名	協働事業としてうまく機能しなかった。	

### 【事業に関するコメント】

市内の多くの団体・企業・行政が連携して実施した理想的な協働事業であります。参加団体も市内の小中学校・大学から企業・団体、そして特別支援学校まで多岐にわたっており、川越の新しい音楽祭の形になる可能性があります。また、聴覚に障害のある方が音楽を楽しめる機器を設置するなど、協賛企業の力を上手く生かして実施した事業であると思います。

今回が初めての開催となりましたが、今回の連携実績を生かして今後とも何らかの形で音楽祭を継続することを期待します。



# 協働事業評価シート

部課名	産業観光部農政課	平成30年度
記入団体名	川越サツマイモ商品振興会	

予算事業名	協働の推進	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>
-------	-------	--

協働事業名称	紅赤いも120年記念事業～生産保存により観光振興に役立てる！	
協働事業の概要	紅赤を生産している2市1町（川越市・さいたま市・三芳町）の関係団体がそれぞれ連携し、12月1日を「紅赤いもの日」と制定宣言すると共に、さらに紅赤発見120年を記念した各種事業を2市1町や各団体等が9月～12月に開催して、一般市民や観光客等へアピールして今後の生産保存に役立てる。	
協働事業の決算額	200,000 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成 31 年 8 月 30日 ～ 平成 31 年 12 月 16 日	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

## 【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）  
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評 価 の 視 点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中前・中	5	5	5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中前・中	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中前・中	5	5	5
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	5	5
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	5	5	5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	4	4	4

合計点数	34 点
------	------



川越総合卸売市場  
での展示の様子

### 【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

#### 【行政】

この事業を通じて、伝統野菜「紅赤」の知名度向上を図れたことは、行政にとっても大変有意義であったと思います。伝統野菜「紅赤」については、川越市まち・ひと・しごと創生総合戦略の具体的施策である「伝統野菜の再興」の一環として、今後も民間団体の知識と行動力を生かした形での事業を継続していきたいと考えています。

#### 【市民活動団体等】

2017年度の協働事業の実施よりも、行政の川越市との連携が図れたことは、大変喜ばしいことでした。さらに、川越の広報紙に8月～12月にかけて、川越のサツマイモについて連載してもらい、市民に対してあらかじめ「川越いも」について周知できたことは良いことでした。また、おかげで12月1日を「紅赤いもの日」として2市1町の関係団体や行政の協力を得て、制定宣言できたことは、今後の取組みに継続性ができ、再度、連携の必要性を感じています。

### 【川越市協働事業審査委員会における評価】

		総合評価
A	7名	A
B	3名	
C	0名	
D	0名	

#### 【事業に関するコメント】

今年度も冊子・チラシの作成やセミナーの開催、シンポジウム、会食イベント、紅赤いもの日の制定宣言など、時に他市町と連携しながら様々な事業を展開してまいりました。特に博物館での企画展に代表されるように昨年度以上に行政・団体間で意思疎通を図りながら、時に他の担当部署とも連携して事業を進めていた点が素晴らしいです。

紅赤は川越の伝統的な農産物ですので、今後も「紅赤ファン」が増えるような活動に期待します。

# 協働事業評価シート

部課名	文化スポーツ部 文化芸術振興課	平成30年度
記入団体名	學のまちkawagoe 実行委員会	

予算事業名	協働の推進	新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>
-------	-------	--

協働事業名称	本を読む、文字に親しむ。「まちをめぐる、活版印刷体験」事業	
協働事業の概要	<p>活版印刷をとおして、広く文字や本の大切さを知っていただくために開催しました。活字を使った活版印刷ワークショップのほか、作家、フォントデザイナー、エディトリアルデザイナーの講演会（各1時間）、活字や印刷機、製版機の展示・解説を行いました。また、イベント期間内では、ほしおさなえ先生の書籍に出てくる川越市内のスポット巡りのスタンプラリーを行い、景品で活版印刷のハガキをプレゼントしました。</p> <p>開催日時 2018年8月1日～17日（スタンプラリー）、17日イベント          開催場所 市内各所（スタンプラリー）、ウエスタ川越（イベント1日のみ）          内容 スタンプラリー、ワークショップ、講演会、展示解説</p>	
協働事業の決算額	200,000 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成30年8月1日 ～ 平成30年8月17日	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

## 【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）  
 ・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	4	3	3.5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	4	5	4.5
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	4	5	4.5
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	5	5
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	3	5	4
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	4	5	4.5

合計点数	31 点
------	------



ワークショップの様子

## 【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

### 【行政】

・今回の協働事業にはほしおさなえさん著「活版印刷三日月堂」、「菓子屋横町月光荘」という小説が下地にありました。

しかし、団体側は小説のネームバリューにただ頼るだけでなく、実際の活版印刷機を導入し「触れてもらう」ことや、小説の舞台をスタンプラリーにし、「まちを歩いてもらう」ことをとおして、団体の目標である「本に親しむ。」「まちを知ることによるまちづくり」の実現を目指していました。その熱意は非常に高く、担当としてもこの事業目的を達成するために所管課として何ができるかを良く考え、団体側と綿密な協議を行い事業を進めることができました。

実際のイベント運営自体は人の流れが読み切れなかった部分もあり、臨機応変な対応を求められる部分もありましたが、団体と市の持つノウハウを共有し、満足度が高い内容になったのではないかと考えています。

外部より専門家を誘致し講演を実施していただくことや、市内企業との協賛タイアップなど今後の事業継続に向けた実績も多く残され、更なる事業の充実に期待が持てる内容となりました。

今後は「本」に欠かせない市内図書館、書店等とも連携を図り本市全体を巻き込んだ事業となることを望みます。

最後に担当として、今回の協働事業で多様な立場の方々と関わり合うことができ、見識を大いに深めることが出来ました。

### 【市民活動団体等】

今回、協賛企業をひろく募集したことから、外部より専門的な知識を持つ方のご協力を仰げたこと、また川越市内小中学校にチラシ配布ができたことが、大きなイベントにつながったと考えています。

機材の運び込みなど、17日のイベントでは苦労することもありましたが、ボランティアの学生さん（立教大学）などをお願いしながら手配を進めました。2019年度は「本から読み解く川越史（案）」と題して、朗読と専門者による講義シリーズ（年4回予定）、また協力企業が実際に活版印刷機を導入したため、スペースを利用して夏休みの活版印刷ワークショップ（こどもむけ・2回）を企画したいと考えております。委員会としては協賛企業への依頼を引き続き行い、川越市がより本や文字に親しめるまちとして発展していくようなイベントを行っていきたいと考えています。助成金及びご支援を大変感謝しております。今後とも引き続き宜しくお願い申し上げます。

## 【川越市協働事業審査委員会における評価】

		評価結果
A	3名	B
B	6名	
C	1名	
D	0名	

### 【事業に関するコメント】

文字離れが進む今日において、子どもをターゲットに「文字」の大切さを教える事業展開は素晴らしいと思います。団体や行政の得意とする役割を十分に果たしながら進められていたのではないのでしょうか。

一方で評価シートからは、団体と行政における事業における認識の差異があったことが見受けられますので、両者の認識の違いを埋めつつ、幅広い団体との連携を模索しながら、より事業の効果が多くの方に還元できるような展開を望みます。



# 協働事業評価シート

部課名	産業観光部 観光課	平成30年度
記入団体名	川越きもの日実行委員会	

予算事業名	協働の推進	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>
-------	-------	--

協働事業名称	川越きもの日事業	
協働事業の概要	<p>川越きもの日実行委員会では、「きものが似合うまち川越」を合言葉に、毎月8の付く日を「川越きもの日」として、きもの姿で川越を楽しんでいただけるお客様を増やすことを目的として様々な事業やサービスを提供します。また毎月の企画以外にイベントとして</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ゆかたファッションショー」 日時：8月18日 場所：蓮馨寺 参加者：40名</li> <li>・11/18きもの供養で17着の供養を実施</li> <li>・「きもので初詣」 日時：1月18日 場所：氷川神社・喜多院等 参加者：45名</li> </ul> <p>を実施しました。</p>	
協働事業の決算額	200,000 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成30年4月 ~ 平成31年2月	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

## 【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）  
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	5	3	4
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	5	4	4.5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	4	4	4
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	5	4	4.5
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	4	4.5
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	4	3	3.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	4	4.5

合計点数	29.5 点
------	--------



「ゆかたファッションショー」の様子

**【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】**

**【行政】**

実行委員の皆さんの精力的な活動によって、本市にはきもの姿で楽しむ観光客が年々増加しています。また、全国的にも体験型観光が求められている中、「きもので街歩き」は本市の大きな魅力の一つであり、様々な場面でPRポイントとなります。

今年度は、小江戸サミットという大きなイベントがありましたが、着物というテーマで香取市、栃木市の皆様を楽しませることができ、これもきもの日実行委員会の皆様の協力が大きいところであったと感じます。

今後も、きもの日実行委員会と市で協力できるイベントがあれば、積極的に情報交換をし、更に広く川越と着物をPRしていきたいと思えます。

**【市民活動団体等】**

従来からのイベントに加え、新たに「きもの供養」などの事業を展開することができました。また、小江戸サミットでは、行政と連携したサービスを他市から訪れた観光客に提供することができ、全体として活発な活動ができました。

来年度は年1度実施している「ファッションショー」を3回程度の開催に拡大し、蓮馨寺以外の会場でも開催することで、更なる集客と川越のPRに努めたいと思えます。

**【川越市協働事業審査委員会における評価】**

A	4名	当該協働事業を実施したことで、地域課題の解決につながるなど、適切な協働事業として評価できるものであった。	<b>B</b>
B	5名	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	0名	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D	0名	協働事業としてうまく機能しなかった。	
<b>総合評価</b>			

**【事業に関するコメント】**

着物姿で街歩きをしている観光客（特に外国人）が目に見えて増加しており、「きもの」が川越を訪れる方々の楽しみや目玉の一つとなっていると思えます。また、様々な事業との連携を進めている効果の表れでもあると思えます。

今後も各実施主体の長所を生かしながら、観光客だけでなく、市民の「文化」として「きもの」が定着するような事業展開を期待します。

# 協働事業評価シート

部課名	産業観光部 観光課	平成30年度
記入団体名	小江戸川越粋な伝統和芸を守り育てる会	

予算事業名	協働の推進	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>
-------	-------	--

協働事業名称	小江戸川越粋な伝統和芸を守り育てる会事業	
協働事業の概要	小江戸蔵里・八州亭において、4月から3月まで毎月第二、第四土曜日の夕方に「伝統和芸鑑賞会」を開催。 1月までの状況は、計18回の開催で、観客数が575名（昨年495名）、15団体（昨年17団体）が参加している。 演目内容は、幫間芸、篠笛、箏、日舞、芸妓衆、尺八、雅楽、三線、巫女舞、三味線、琉球舞踊、かつぼれ、地唄舞、玉すだれ等。	
協働事業の決算額	200,000 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成30年4月 ~ 平成31年2月	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

## 【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）  
 ・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中前・中	4	4	4
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中前・中	4	4	4
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中前・中	4	4	4
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	5	4	4.5
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	4	4.5
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	4	5	4.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	4	4	4

合計点数	29.5 点
------	--------



伝統和芸鑑賞会の様子

**【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】**

**【行政】**

小江戸川越粋な伝統和芸を守り育てる会の皆さんの精力的な活動によって、月2回の鑑賞会も滞りなく開催出来ました。また、昨年度よりも観客が増加したことは喜ばしいことだと思います。また、担当者が自らイベント等に出向いて演者をスカウトするなど、積極的な活動を行っており、伝統和芸鑑賞会を盛り上げるために努力していることが窺えました。市も協力して広報活動をし、引き続き伝統和芸鑑賞会を盛り上げていきたいと思っています。

**【市民活動団体等】**

2014年から始めたイベントですが、川越市をはじめ市民のみなさんのご協力で5年間続けることができました。今年も「伝統和芸鑑賞会」の入場者数が増加しているので、広報活動や出演者情報など、今以上に連携を深めていく必要性を感じています。今後は、課題としている観光客（外国人観光客も含めて）の集客に向けての周知を、英語の発信も含めて定期的実施していきたいと思っています。

**【川越市協働事業審査委員会における評価】**

A	2名	当該協働事業を実施したことで、地域課題の解決につながるなど、適切な協働事業として評価できるものであった。	<b>総合評価</b>  <b>B</b>
B	7名	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	1名	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D	0名	協働事業としてうまく機能しなかった。	

**【事業に関するコメント】**

昨年と比較して、観客が増加したことは一つ成果であると思います。また、学生ボランティアを活用するなどの工夫も見られ、伝統文化を継承に向けた工夫もなされていると思います。

一方で、市民や外国人観光客へのアプローチは依然として課題が残っていると思います。伝統文化の「保存」という観点では、市民の理解・関心が不可欠ですので、更なる周知方法をご検討ください。また、実際の来場者にアンケート調査を行う等の、ニーズを把握する試みも検討してみたいはいかがでしょうか。



# 協働事業評価シート

部課名	教育委員会 教育センター	平成30年度
記入団体名	東京国際大学	

予算事業名	協働の推進	新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>
-------	-------	--

協働事業名称	川越市小学校英語ティーチング・アシスタント事業	
協働事業の概要	川越市小学校英語ティーチング・アシスタントは、東京国際大学言語コミュニケーション学部と川越市教育委員会が協定した内容に従い、学生をティーチング・アシスタントとして川越市の小学校に派遣し、小学校の英語教育の質の向上に資するための英語の授業における補助者として活動することを目的としている事業です。	
協働事業の決算額	25,000 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成30年6月1日 ~ 平成31年2月28日	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

## 【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）  
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中前・中前・中	4	5	4.5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中前・中前・中	4	5	4.5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中前・中前・中	5	5	5
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	4	5	4.5
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	5	5
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	4	5	4.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	4	5	4.5

合計点数	32.5 点
------	--------



市内小学校での活動の様子

### 【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

#### 【行政】

平成30・31年度の小学校外国語活動移行期間において、英語教育の質の向上を図るため、東京国際大学の学生を授業補助者として、前期13名、後期6名の学生を市内小学校への配置しています。学校からの活動報告書によると、担任の補助者として、英語でのモデルを示したり、子ども達との英語でのやり取りを行ったりするなど、その力を十分に発揮してくれました。また、学生の活動報告書には、この経験を通して学んだことや英語教育や指導方法について感じたことなどが書かれており、授業の補助者として真剣に取り組まれた様子を伺うことができました。来年度に向けて、授業でのより効果的な活用等について、今後検討・改善していくとともに、学校へ周知を図っていく必要があると考えます。

東京国際大学の遠藤副学長をはじめとして、言語コミュニケーション学科の松林教授には、学生へ積極的に参加を促したり、連絡調整を行ったりと、ご理解とご協力をいただき、無事に1年目を終えることができました。来年度も継続していきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたしま

#### 【市民活動団体等】

参加者25人の大学生と連絡を取りながら、研修会を2回実施し、配置校決定までに学生への連絡が多く、思いのほか大変な仕事でした。なんとか1年間、前向きにできたのは、協働で行う教育センターの稲葉さんと一緒にできたおかげです。大変感謝しています。大学生が生き生きと活動して、児童が英語を学ぶときに、「生きた英語を使う身近な日本人」を当たり前のようにして見ることができたことを考えると、よいプロジェクトだと思います。大学生活動の様子を聞き、川越市の小学校英語教育のために貢献できたと思います。このような機会を与えてくださり、ありがとうございました。

### 【川越市協働事業審査委員会における評価】

			総合評価
A	5名	当該協働事業を実施したことで、地域課題の解決につながるなど、適切な協働事業として評価できるものであった。	A
B	4名	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	0名	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D	0名	協働事業としてうまく機能しなかった。	

#### 【事業に関するコメント】

大学の持つ「資源」と行政の「ニーズ」が上手くマッチした協働事業です。特に、この事業に関わる「児童」「学生」「教師」の三者全てにメリットがあることがとても評価でき、こうした取り組みを様々なジャンルに広げることで、市における教育の更なる発展・充実が見込めるのではないのでしょうか。

事業実施初年度のため、様々な課題が表面化していると思いますが、次年度に向けて団体・行政が連携しながら課題の解決を進め、多くの小学校で実施されることを期待します。

# 協働事業評価シート

部課名	保健医療部 食品・環境衛生課	平成30年度
記入団体名	小江戸地域猫の会	

予算事業名	協働の推進	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>
-------	-------	--

協働事業名称	地域猫活動推進事業	
協働事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>●6月25日～7月5日 ウェスタ川越2階ワークショップ・情報コーナー「さくら猫活動写真展」</li> <li>●9月18日～9月25日 市役所本庁舎1階ロビーでパネル展示</li> <li>●10月20日・10月21日 川越まつりにて広報活動・猫の譲渡会</li> <li>●12月9日 ウェスタ川越 南公民館「飼い主のいない猫のシンポジウム」を所沢・狭山・入間市等と合同実施</li> <li>●飼い主のいない猫の相談対応 (2件)</li> <li>●随時飼い主のいない猫の相談に対応し約180頭の不妊・去勢手術を実施</li> <li>また、40頭の保護・譲渡を実施。</li> </ul>	
協働事業の決算額	33,000 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成30年6月～平成 31年 2月	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

## 【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた (5点) ・よくできた (4点) ・できた (3点)  
・あまりできなかった (2点) ・全くできなかった (1点)

No.	評 価 の 視 点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中前・中前・中	4	4	4
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中前・中前・中	4	5	4.5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中前・中前・中	5	5	5
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	5	5
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	4	4	4
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	4	4.5

合計点数	32 点
------	------



「飼い主のいない猫のシンポジウム」の様子

**【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】**

**【行政】**

昨年に引き続き協働事業として、事業を相互に補助しあう形になり、良かったと思います。「川越市飼い主のいない猫の不妊・去勢手術に対する補助金事業」については、まだまだ市民に周知されていない中で、小江戸地域猫の会にも多くの周知啓発をしていただき感謝しております。また、猫の捕獲補助をしていただき、多くの市民にも喜ばれていることと思います。担当課としては、小江戸地域猫の会主催の事業の広報活動に協力させていただきました。

**【市民活動団体等】**

地域猫対策は猫の問題と捉えがちなのですが、相談者は地域住民であり解決するのも地域住民です。多様な生物が共存出来る社会とそうでない社会は、自ずから深みが違うと思います。川越市は、そのどちらを選択するかを熟慮することは大切だと思います。安全で安心な社会を目指し、それに加えて温かい社会を目指すことに寄与したいと思っています。

**【川越市協働事業審査委員会における評価】**

A	5名	当該協働事業を実施したことで、地域課題の解決につながるなど、適切な協働事業として評価できるものであった。	<b>B</b>
B	5名	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	0名	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D	0名	協働事業としてうまく機能しなかった。	
<b>総合評価</b>			

**【事業に関するコメント】**

市民が地域の課題を自分たちで解決を試みている貴重な事例であると思います。また行政と団体の互いの特性も十分に発揮して、事業を行っていると考えます。当事業においては、市民への周知や活動への理解が重要になりますが、例年実施している川越まつりでの啓発活動のように、「活動を知らない市民」が集まる場での啓発活動はとても効果があると思いますので、来年度の事業展開に期待します。